



笑顔あふれるまちづくり

# いいぬま雅子

日本共産党品川区議会議員区政報告

NO. 375. 2012. 4. 1.

## 第一回定例区議会いいぬま一般質問NO. 2

# 品川の競争教育を改め 学びあいの教育に転換を



学校選択制は、「地域のつながりを壊している」「学校間格差が広がった」と地域から厳しい指摘をされている品川区教育改革「プラン21」は子どもの立場に立ち、見直しが必要ではないでしょうか。



### 子どもを傷つける 学校選択制は見直しを

2000年、品川の教育改革は始まりました。教育長は「そうせざるを得ない状況に学校や教員を追い込んでいく」と、学校に経営論的視点を持ち込み、トップダウンで進めてきました。問題点を3点指摘しました。

の学校にバラバラに通い、子どもも親もつながりが持てない」と地域からの声。子育てが難しい時代、学校と家庭と地域がつながり、子どもたちが安心して育つ環境が必要です。抽選で80人も希望校に入れない学校選択制の実態

### 教育委員会が、「プラン21」を競争教育と認めていない点

小・中学校の学校選択制、品川区独自の学力テスト実施と成績公開、小学5年生からの教科担任制や定期テストの導入、習熟度授業の全校実施、小中一貫教育の全区展開、

定員を超えた場合抽選になります。抽選に漏れ、辞退者が出るまで待つ。待っても入れなかった80人は、元の学区にもどるか、定員に空がある学校を選ぶしかありません。子どもたちを傷つける結果になっています。

どれをとっても競争教育そのものです。子どもからは「勉強がわからなくてつらい」教員は「納得いかない教育改革についていけない。不登校も、いじめも学級の荒れも改善されていない」と悲鳴を上げています。

### 地域の教育力が壊されてしまった点

学校選択制が始まり「子どもたちがあちこち

共産党は提案します

### 競争教育から、 学びあいの教育へ転換を

競争教育で、学力保障はできません。わかる子もわからない子と一緒に教えあい学びあうことで、子どもが学ぶ喜びと教師が教える喜びを実感できる教育を実現します。

質問での指摘、提案に

対して、教育委員会次長の答弁は次の通りです。

○プラン21は、教員の指導力を高め、個に応じた丁寧な指導を行い、子どもの学力向上や学習意欲を伸ばす事を目的としているので、今後を着実に推進していく。

○保護者のアンケートで、80%以上が通っている学校に満足しているとの回答から学校選択制は評価

されている。

○選択制と言っても施設に限りがあるので、情報提供を行っている。(状況を分かって選択してほしい)学校選択制が子どもを傷つけている事実は一切ありません。

・ ・ ・ 読者の皆さんは、次長の答弁をどのように受け止めますか。私は、子どもの実態とかけ離れた不誠実な答弁と怒っています。



尾木直樹さんの講演は質問のきっかけになりました。世界の中で、日本の子どもは幸福度が最も低い。自分が優秀と思える(自己肯定感)子どもも極端に少ないとの報告もありました。

どの子ども、伸びる力を体いっぱい秘めています。一人ひとりの力を受け止める教育環境をつくる事は大人の責任です。私は少人数学級による学びあい教育を繰り返し求めていきます。

特別区議員研修会 (1月20日区政会館にて)

### 尾木直樹さん(法政大学教授)講演

「子どもの危機をどう見るか 家庭と学校と地域のつながり」

競争の教育では学力は付かない。世界の教育は、入試をやらず一人一人に学力を保障する教育の流れになっている。しかし日本はテストで落とす教育、授業時間を増やし、詰め込みでは質のアップは図れない。競争で一部のエリートを作る日本の教育は失敗し、世界から大きく立ち遅れている。今や大企業は日本人ではなく、優秀な留学生を採用している。教育は未来への投資であり、ライ

フライン。わかる子もわからない子も一緒に学ぶから互いに育ちあう。能力別に分ける習熟度別学習は、欧米では失敗に終わり過去のものになっている。と日本の教育を痛烈に批判。合わせて、子どもは人々に迷惑をかけ、叱られ、ケアを受けながら人間の心が育つ。うちの子を大切にす親バカになってほしい。と家庭のあり方も含め、示唆に富んだ講演会でした。(飯沼メモによる要旨)

### 防災問題学習会

自分のまちや家は安全か まちのみなさんと考える

4月19日(木)午後6時から荏原第5区民集会所にて

講師 中村八郎さん(NPO暮らしの安心安全サポーター 理事長日大講師)

お気軽にご参加を 主催 日本共産党品川区議団